

山ふかく川きよきところ君と二人

庭とりかひて宿をしめばや

佐々木信綱

舟窓によりそひ見れば薰ふきの

家居みつ四つ庭とりのこま

琴の音

今宵の月に

あくがれて

鶯

水

里の小川に

来て見れば

誰かむすびけん

程遠き

彼方の岡の

伏やより

かすかにもるゝ

琴の音に

思ひ出けり

故里の君

此世の旅路

あはれ愛き世と

世をかこち

東くめ子

はかなきものと

余りに弱き

余りにもろき

身をなげく

人の子よ

人の子よ

此世の旅路

この世の海路

道けはしとて

波あらしとて

山たかく

波あらし

泣くべきか

なくべきか

ふるひたゞや

叫ぶをやめよ

戦ひまけし

憐をこふ

人の子よ

行路難

兵のごと

人のごと

蝶

胡蝶や胡蝶やせてふ

小畑いく子

何をもとめてそこはかと

庭の芝生をさまよひぬらし

白く妙なる汝がはねの

しほれく〜て見えけるは

雨にそぼちし爲めのみならじ

馴れて契をこむらじささ

ともにすみれの花の香を

忘れかねてや春さへすぎて

卯の花くだし日數へて

ふりにし跡をこひしげに

訪ふも哀やものぐるほしく

汝はしらずや世の中は

うつろひやすき花ごころ

咲くも一時なさけもいろも

さたれ胡蝶よ諸ともに

うき世がたりの友として

小さき胸のうさはらさなん

一聲

つねを

杜鵑一聲

さみだれは

ぐまなくはれし

夕ばえの

あやなす雲に

日は落ちて

蜀山萬里

つきしろし

師を懐ふ

獨醒軒主人

散る花にいとわはれはまざりけり

君と詠めし春を懐ひて